

防災リテラシーを向上させるための「防災リテラシーハブ」の開発

Development of "Disaster Management Literacy Hub" (DMLH) to Enhance Disaster Management Literacy

*木村 玲欧¹、林 春男²、小林 皓介³、西野 隆博⁴、卜部 兼慎³、井上 聡³*Reo Kimura¹, Haruo Hayashi², Kosuke Kobayashi³, Takahiro Nishino⁴, Kenshin Urabe³, Satoshi Inoue³1.兵庫県立大学、2.京都大学、3.株式会社ジイケイ京都、4.有限会社アール・ツー・メディアソリューション
1.University of Hyogo, 2.Kyoto University, 3.GK Kyoto Inc., 4.R2 Media Solution Inc.

本論文は、「防災リテラシー」を体系化・一般化するための「防災リテラシーハブ」というシステムの概念を提案し、一般市民や災害対応従事者が防災リテラシーに関する素材を共有することができるような「防災リテラシーハブ」の設計について論じたものである。

21世紀前半の大規模地震災害を乗り越えるためには、構造物などによる被害抑止策だけではなく、一般市民・災害対応従事者など人々や組織による被害軽減策も重要であり、彼らが身につけるべき「防災に関する知識・対応能力」を防災リテラシーと定義した。

防災リテラシーハブの概念設計については、インストラクショナルデザインの考え方をもとに、一般市民・災害対応従事者が、「実際に研修映像を見ながら、教材と確認テストによって、視覚的に学ぶことができるスタイル」（映像でまなぶ）、「学校で教員が使う指導案（授業の進行計画）（guidance/teaching plan）と教材によって、学校・地域・自治体などで研修・訓練を行いたいと考えている人が、研修・訓練の展開や指導の方法・コツを学ぶことができるスタイル」（指導案でおしえる）、「防災リテラシーに関する素材を、投稿したり、検索したりしながら学ぶことができるスタイル」（資料を収集・整理する）の3種類を提案した。

キーワード：防災リテラシー、インストラクショナルデザイン、災害対応能力、研修・訓練

Keywords: disaster management literacy, Instructional Design (ID), competencies for disaster responses, education and training